

現代かなづかい

◎内閣訓令第八号

各官庁

「現代かなづかい」の実施に関する件

国語を書きあらわす上に、従来のかなづかいは、はなはだ複雑であって、使用上の困難が大きい。これを現代語音にもとづいて整理することは、教育上の負担を軽くするばかりでなく、国民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが大きい。それ故に、政府は、今回国語審議会の決定した現代かなづかいを採択して、本日内閣告示第三十三号をもって、これを告示した。今後各官庁においては、このかなづかいを使用するとともに、広く各方面にこの使用を勧め、現代かなづかい制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

◎内閣告示第三十三号

現代国語の口語文を書きあらわすかなづかいを、次のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

現代かなづかい

まえがき

一、このかなづかいは、大体、現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものである。
一、このかなづかいは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。
一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれを変更しがたいものは除く。

発音 新かなづかい 備考 (旧かなづかいを示す)

イ	い	ゐ
エ	え	ゑ
オ	お	を
カ	か	くわ
ガ	が	ぐわ
ジ	じ	ぢ

(発音) 新かな備 考 (旧かなづか) (いを示すか)

ズ 新かな づ
ワ い わ
イ い
ウ おう
オ お
エ え
オ お

発音 二 新かな備 考 (旧かなづか) (いを示すか)

ユウ ゆう
オオ おう
コオ こう
ゴオ ごう
ソオ そう
ゾオ ぞう
トオ とう
ドオ どう
ノオ のう
ホオ ほう
ポオ ぽう
ボオ ぼう

いう、いふ、ゆふ
あう、わう、あふ、はう
かう、くわう、かふ、こふ
がう、ぐわう、がふ、ごふ
さう、さふ
ざう、ざふ
たう、たふ
だう
なう、なふ、のふ
はう、はふ、ほふ
ほう、ばふ、ぼふ

モオ もう まう
ヨオ よう やう、えう、えふ
ロオ ろう らう、らふ

三

発音 三 新仮名備 考 (旧かなづか) (いを示すか)

キユウ きゅう、きふ
ギユウ ぎゅう、ぎふ
シユウ しゅう、しふ
ジュウ じゅう、じふ、ぢゅう
チュウ ちゅう
ニユウ にゅう、にふ
ヒユウ ひゅう、ひふ
ビユウ びゅう、びふ
リュウ りゅう、りふ

四

発音 四 新かな備 考 (旧かなづか) (いを示すか)

キョウ きょう、けう、けふ
ギョウ ぎょう、げう、げふ
ショウ しょう、せう、せふ
ジョウ じょう、ぢやう、ぜう、でう、でふ
チョウ ちょう、てう、てふ

ニヨオ によう ねう
 ヒヨウ ひよう ひやう、へう
 ビヨウ びよう びやう、べう
 ミヨオ みよう みやう、めう
 リヨオ りよう りやう、れう、れふ

細則

第一、ゐ、ゑ、をはい、え、おと書く。ただし助詞のをを除く。

例

一、ゐをいと書くもの
 いど(井戸) いのしし(猪) くわい(慈姑) あい(藍)
 まいる(参る) いる(居る) いびよう(胃病)
 けんい(権威) いち(位置) いさん(遺産)
 いにん(委任) たいい(大尉) くいき(区域)
 しょくいん(職員) びよういん(病院)
 よいん(余韻) すいどう(水道) すいさつ(推察)
 すいじ(炊事) すいじゃく(衰弱) すいぶん(随分)
 いっつい(一對) ゆいごん(遺言) しんるい(親類)
 二、ゑをえと書くもの
 こえ(声) つえ(杖) すえ(末) うえる(植ゑる)
 すえる(据ゑる) えとく(会得) ちえ(智慧)

三、

ををおと書くもの
 えこう(回向) このえ(近衛) ちようえつ(超越)
 えんきん(遠近) こうえん(公園) けんえん(犬猿)
 いちえん(一元) ぎよえん(御苑) えんさ(怨嗟)
 えんじよ(援助) えんざい(冤罪)

おけ(桶) おか(岡) うお(魚) とお(十)

おどる(踊る) おしえる(教へる) しおれる(萎れる)
 おしい(惜しい) おかしい(をかしい) あおい(青い)
 おめい(汚名) おかん(悪寒) ろうおう(老翁)
 かおく(家屋) おんど(温度) へいおん(平穩)
 くおん(久遠) おんりょう(怨霊)

第二

例

一、くわをかと書くもの
 かがく(化学) かへい(貨幣) かふん(花粉)
 けっか(結果) かし(菓子) かこ(過去)
 かがく(科学) かし(火事) かもく(課目)
 かいぎ(会議) かいが(絵画) こうかい(後悔)
 はかい(破壊) かいすう(回数) きかい(奇怪)
 ゆかい(愉快) かくとく(獲得) かくだい(拡大)

かつどう(活動) こうかつ(狡猾) かんげい(歓迎)
かんり(官吏) きかん(帰還) いっかん(一貫)

二、ぐわをがと書くもの

がれき(瓦礫) がしょう(臥床)
がいこく(外国) 『いちがつ(一月)』
がんり(元利) がんやく(丸薬) こんがん(懇願)

第三 ぢ、づはじ、ずと書く。

例

一、ぢをじと書くもの

あじ(味) ふじ(藤) わらじ(草鞋)
ねじる(捻ぢる) はじる(恥ぢる) よじる(攀ぢる)
じぞく(持統) じ(持) 『じく(軸) じんち(陣地)』
じょせい(女性) さくじょ(削除)
づをずと書くもの
うずら(鶉) うず(渦) みず(水) 『ゆずる(譲る)』
うずめる(埋める) さずける(授ける) 『
めずらしい(珍らしい) はずかしい(恥かしい)』
しずかに(静かに) まず(先づ) 『

だいず(大豆) ずじょう(頭上)
さんずのかわ(三途の川) ずが(図画)
たよし

(1) 二語の連合によって生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

はなぢ(鼻血) もらいぢち(もらひ乳) 『
ひぢりめん(緋縮緬) ちかぢか(近々)』
みそづけ(味噌漬) みかづき(三日月) 『
ひきづな(引綱) つねづね(常々)』

(2) 同音の連呼によって生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

ちぢみ(縮み) ちぢむ(縮む) 『つづみ(鼓)』
つづら(葛籠) 『つづく(続く) つづる(綴る)』

第四 ワに発音されるはは、わと書く。たよし助詞のはは、はと書くことを本則とする。

例

かわら(瓦) かわ(河) にわ(庭) 『
あらわす(著す) まわる(廻る) こわれる(毀れる)』
あらわ(洗) 洗はない(洗はない) あつかわ(扱) 扱はない(扱はない)』

うたわ^{ウタ}ない(歌は^{ウタ}ない)』かわ^カいら^イしい(か^カは^ハいら^ラしい) くわ^クしい(詳^クしい) けわ^ケしい(険^ケしい)』
 にわか^ニかに(俄^ニかに) すな^スわち(則^スち)』びわ^ビ(琵琶^ハ)
 びわ^ビ(枇杷^ハ)

第五 イに発音されるひは、いと書く。

例

うぐ^ウいす(鶯^ヒ) たい^タ(鯛^ヒ) はい^ハ(灰^ヒ) いい^イわけ(言^ヒ訳)』
 つい^ツやす(費^ヒす) たい^タらげる(平^ヒげる)』
 なら^ナいます(習^ヒひます) おも^オいます(思^ヒひます)
 した^シが^ガい^イます(従^ヒひます)』ち^チい^イさい(小^ヒさい)
 こ^コい^イしい(恋^ヒしい) つい^ツに(遂^ヒに)

第六 ウに発音されるふは、うと書く。

例

あら^アう(洗^ヒふ) ま^マう(舞^ヒふ) あ^アう(合^ヒふ) か^カう(買^ヒふ)
 う^ウたう(歌^ヒふ) し^シな^ナう(擲^ヒふ) い^イう(言^ヒふ)
 く^クう(食^ヒふ) す^スう(吸^ヒふ) ぬ^ヌう(縫^ヒふ) ゆ^ユう(結^ヒふ)
 くる^クう(狂^ヒふ) あ^アら^ラそ^ソう(争^ヒふ) う^ウけ^ケお^オう(請^ヒ負^ヒふ)
 お^オも^モう(思^ヒふ) あ^アや^ヤう^ウい(危^ヒい)

第七 オに発音されるふは、おと書く。

例

あ^アお^オい(葵^ヒ)』
 あ^アお^オぐ(仰^ヒぐ) あ^アお^オる(煽^ヒる) た^タお^オす(倒^ヒす)
 第八 エに発音されるへは、えと書く。たゞし助詞のへは、へと書くことを本則とする。

例

か^カえ^エる(蛙^ヒ) い^イえ(家^ヒ) ま^マえ(前^ヒ) か^カん^ンが^ガえ(考^ヒ)』
 か^カえ^エる(帰^ヒる) さ^サえ^エず^ズる(嚙^ヒる)』
 す^スく^クえ(救^ヒ) ひ^ヒろ^ロえ(拾^ヒへ)』さ^サえ(助^ヒ詞^ヒさへ)
 第九 オに発音されるほは、おと書く。

例

い^イき^キお^オい(勢^ヒ) か^カお(顔^ヒ) し^シお(塩^ヒ) に^ニお^オい(匂^ヒ)』
 お^オお^オか^カみ(狼^ヒ) お^オお^オや^ヤけ(公^ヒ) こ^コお^オり(氷^ヒ)』
 こ^コお^オろ^ロぎ(蟋^ヒ蟀^ヒ) ほ^ホお^オず^ズき(酸^ヒ漿^ヒ) ほ^ホお(頬^ヒ)』
 ほ^ホお(の^ノき)(朴^ヒ木) も^モよ^ヨお^オし(催^ヒし)』
 な^ナお^オす(直^ヒす) し^シお^オお^オせる(為^ヒ遂^ヒせる)』
 と^トど^ドこ^コお^オる(滞^ヒる) と^トお^オる(通^ヒる)』お^オお^オい(多^ヒい)
 お^オお^オき^キい(大^ヒきい) と^トお^オい(遠^ヒい)』な^ナお(猶^ヒ)』
 第十 エの長音は、ゆうと書く。

一、 いうをゆうと書くもの

ゆう^{ユウ}じん(友^ヒ人) ゆう^{ユウ}げん(幽^ヒ玄) ゆう^{ユウ}びん(郵^ヒ便)

ゆうわく(誘惑) りゆう(理由) しょゆう(所有)
 ゆうぎ(遊戯) ゆうぜん(悠然) ゆうりよ(憂慮)

二、いふをゆうと書くもの
 とゆう(都邑)

三、ゆふをゆうと書くもの
 ゆうがた(夕方)

第十一 エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例

ねえさん(姉さん) ええ(応答の語)

第十二 オの長音は、おうと書く。

例

一、あうをおうと書くもの。

おうか(桜花) ちゅうおう(中央) おうむ(鸚鵡)

二、わうをおうと書くもの

よおう(弱う) おうらい(往来) こくおう(国王)
 おうせい(旺盛) おうじ(皇子) おうごん(黄金)

おうし(横死)

三、あふをおうと書くもの

おうぎ(扇) おうみ(近江) おうとつ(凹凸)
 おうなつ(押捺) おうりょく(鴨緑江)

四、はうをおうと書くもの

あおう(逢はう) かおう(買はう) まおう(舞はう)
 こおう(強う)

第十三 コおよびゴの長音は、こう、ごうと書く。

例

一、かうをこうと書くもの

こうじ(麴) こうがい(筭) こうべ(神戸)
 さこう(咲かう) きこう(聞かう)

こうばしい(かうばしい) あこう(赤う) ちこう(近う) こう(斯う)

こううん(好運) こうりよ(考慮) ほうこう(方向)
 しゅうこう(酒肴) こうすい(香水) こうぎ(講議)

こうざん(高山) こうかい(航海) こうふく(幸福)
 こうか(効果) こうつう(交通) こうふく(降伏)

二、くわうをこうと書くもの

こうせん(光線) こうだい(宏大) こうきょう(広狭)
 こうしよく(黄色) こうぞく(皇族) こうてん(荒天)

三、かふをこうと書くもの

こうおつ(甲乙) たいこう(太閤) こうかく(岬角)

四、こふをこうと書くもの

こう(劫) ×

五、がうをこうと書くもの

いそこう(急がう) 『なこう(長う)』

ほんこう(番号) さいこう(西郷)

こういん(強引) ぶんこう(文豪)

こうぜん(傲然) ×

六、くわうをこうと書くもの

こうこう(轟々) ×

七、がふをこうと書くもの

いちこう(一合)

八、ごふをこうと書くもの

えいこう(永劫) × ざいこう(罪業)

第十四 ソおよびゾの長音は、そう、ぞうと書く。

例

一、さうをそうと書くもの

はなそう(話さう) かえそう(返さう)

ちらそう(散らさう) 『あそう(浅う)』 そう(然う) 『

そうじ(掃除) いっそう(一双) そうが(爪牙) × ×

そうちよう(早朝) そうい(相違) そうこ(倉庫)

じゅうそう(重曹) × そうねん(壮年) たいそう(体操)

二、さふをそうと書くもの

さうもく(草木) そうどう(騒動) そうとう(争鬪)

さうしつ(喪失) そうしき(葬式)

さうろう(候ふ) 『そうわ(挿話)』 ×

三、ぎうをぞうと書くもの

せいぞう(製造) ぞうしよ(蔵書) ぞう(象)

しょうぞう(肖像)

四、ざふをぞうと書くもの

ぞうきん(雑巾) ×

第十五 トおよびドの長音は、とう、どうと書く。

例

一、たうをとうと書くもの

とうげ(峠) たとうがみ(畳紙) 『

うとう(打たう) かとう(勝たう) たとう(立たう) 『

いとう(痛う) かとう(堅う) 『

とうけん(刀剣) とうしよ(島嶼) × とうぼつ(討伐)

とうぞく(盗賊) さとう(砂糖) とうぜん(当然)

ねっとう(熱湯) おうとう(桜桃) とうき(陶器)

きとう(祈禱) × ついと(追悼)

二、たふをと(う)と書くもの

とうべん(答弁) × とう(塔) × とうは(踏破)

すいと(出納)

三、だうを(う)と書くもの

どうろ(道路) × とうとう(講堂) × かいとう(海棠) ×

ぶどう(葡萄) × ×

第十六 ノの長音は、のうと書く。

例

一、なうを(う)と書くもの

しのう(死なう) 『あぶのう(あぶなう)』

だいのう(大脳) × くのう(苦惱) × のうちゅう(囊中) ×

二、なふを(う)と書くもの

のうに(う) (納入)

三、のふを(う)と書くもの

きのう(昨日)

第十七 ホおよびポ、ボの長音は、ほう、ほう、ほうと書く。

例

一、ほうを(う)と書くもの

ほうき(箒) × ほうむる(葬る) ×

ほうご(報告) × ほうか(邦家) × ほうほう(国宝) ×

ほうさく(方策) × ほうかつ(包括) × ほうび(褒美) ×

二、はふ(またはほふ)を(う)と書くもの

ほうる(投る) × ほうりつ(法律) × ほうし(法師)

三、ほうを(う)と書くもの

はっほう(八方)

四、ぽふ(またはほふ)を(う)と書くもの

りっほう(立法) × せっほう(説法)

五、ほうを(う)と書くもの

あそほう(遊ぼう) × とほう(飛ぼう)

はこほう(運ぼう) × 『ほうどう(暴動)』 × ほうけん(冒険)

ほうず(坊主) × しょうほう(書房) × めっほう(滅亡)

きほう(希望) × ほうちゅう(膨脹)

六、ばふ(またはほふ)を(う)と書くもの

びんぼう(貧乏)

第十八 モの長音は、もうと書く。

例

一、まうを(う)と書くもの

もうける(儲ける) × もうす(申す) ×

やすもう(休まう) × たのもう(頼まう) ×

あもう(甘う) × せもう(狭う) ×

もうはつ(毛髪) × もうどう(妄動) × もうもく(盲目) ×

ほんもう(本望) もうまく(網膜)

第十九 ヨの長音は、ようと書く。

例

一、やうをよう^{ヤウヤウ}と書くもの

ようか(八日) 『はよう(早う)』 ようやく(漸く) 『

ようもう(羊毛) かいよう(海洋) ようしき(様式)

たいよう(太陽) ようりゆう(楊柳)

二、えうをよう^{エウヤウ}と書くもの

ようりよう(要領) にちよう(日曜)

ようはい(遙拝) ようきよく(謡曲) ようねん(幼年)

ようせつ(夭折)

三、えふをよう^{エフヤウ}と書くもの

こうよう(紅葉)

第二十 ロの長音は、ろうと書く。

例

一、らうをろう^{ラウヤウ}と書くもの

いのろう(祈らう) かえろう(帰らう) 『

くろう(暗う) かるう(辛う) あろう(粗う) 『

ろうじん(老人) ろうどう(労働) めいろう(明朗)

ろうか(廊下) たろう(太郎)

二、らふをらう^{ラフヤウ}と書くもの

ろうそく(蠟燭) きゅうろう(旧臘)

第二十一 キュおよびギユの長音は、きゅう、ぎゅうと書く。

例

一、きうをきゅう^{キウキウ}と書くもの

おおきゅう(大さう) 『きゅうよう(休養)』

きゅうりよう(丘陵) えいきゅう(永久)

きゅうてき(仇敵) きゅう(灸)

きゅうてき(要求) きゅうてき(仇敵) きゅう(灸)

二、きふをきゅう^{キフキウ}と書くもの

きゅうむ(急務) きゅうだい(及第) こきゅう(呼吸)

かいきゅう(階級) かんきゅう(感泣)

きゅうよ(給与)

三、ぎうをぎゅう^{ギウキウ}と書くもの

ぎゅうにゅう(牛乳)

第二十二 シュおよびジユの長音は、しゅう、じゅうと書く。

例

一、しうをしゅう^{シウシウ}と書くもの

しゅうと(舅) しゅうとめ(姑) 『

あたらしゅう(新しう) すずしゅう(涼しう) 『

しゅうよう(修養) しゅううん(舟運)』

しゅうじん(囚人) ゆうしゅう(優秀)

しゅうぎょう(就業) しゅうにゅう(収入)

しゅうき(臭気) ばんしゅう(晩秋)

きゅうしゅう(九州) しゅうちゅう(酋長)

しゅうい(周囲) こんしゅう(今週)

二、しふをしゅうと書くもの

しゅうとく(拾得) しゅうちやく(執着)

しゅうちゅう(集中) しゅうめい(襲名)

れんしゅう(練習) へんしゅう(編輯)

三、じゅうをじゅうと書くもの

じゅうなん(柔軟) じゅうるい(獸類)

四、じふをじゅうと書くもの

じゅう(十) ぼくじゅう(墨汁) じゅうき(什器)

五、ぢゅうをじゅうと書くもの

じゅうやく(重役) じゅうきよ(住居)

まんじゅう(饅頭)

第二十三 チュの長音は、ちゅうと書く。

例

一、ちゅうをちゅうと書くもの

はくちゅう(白昼) ちゅうぞう(鑄造)

ちゅうたい(紐帯) うちゅう(宇宙)

ちゅうしゅつ(抽出) せいちゅう(掣肘)

第二十四 ニュの長音は、にゅうと書く。

例

一、にゅうをにゅうと書くもの

にゅうわ(柔和)

二、にふをにゅうと書くもの

にゅうがく(入学)

第二十五 ヒュおよびビュの長音は、ひゅう、びゅうと書く。

例

一、ひゅうをひゅうと書くもの

ひゅうが(日向)

二、びゅうをびゅうと書くもの

ごびゅう(誤謬)

第二十六 リュの長音は、りゅうと書く。

例

一、りゅうをりゅうと書くもの

りゅうい(留意) せんりゅう(川柳)

りゅうこう(流行)

二、りふをりゅうと書くもの

こんりゅう(建立) いちりゅう(一粒)

第二十七 キヨおよびギヨの長音は、きょう、ぎょうと書く。

例

一、きやうをきょうと書くもの

きょうたん(驚嘆) キヤウタン ねっきょう(熱狂) ネツキヤウ

きょうだい(兄弟) キヤウタイ きょうそう(競走) キヤウソウ

きょうだい(鏡台) キヤウダイ きょうりよく(強力) キヤウリヨク

とうきょう(東京) トウキヤウ きょうもん(経文) キヤウモン

こきょう(故郷) コキヤウ きょうおう(饗応) キヤウオウ

二、けうをきょうと書くもの

きょうごう(校合) ケウガフ きょういく(教育) ケウイク

てつきょう(鉄橋) テツケウ きょうぼく(喬木) ケウボク

三、けふをきょうと書くもの

きょう(今日) ケフ きょうい(脅威) ケフキ きょうりよく(協力) ケフリヨク

きょうき(峽気) ケフキ

四、ぎやうをきょうと書くもの

しゅぎょう(修行) シュギヤウ にんぎょう(人形) ニンギヤウ

五、げうをきょうと書くもの

こんぎょう(今晚) コンゲツ きょうしゅん(堯舜) ゲウシュン

六、げふをきょうと書くもの

ぎょうむ(業務) ゲフム

第二十八 シヨおよびジヨの長音は、しゅう、じゅうと書く。

例

一、しやうをしょうと書くもの

しょうじき(正直) シヤウヂキ しょうばい(商売) シヤウバイ

しょうさい(詳細) シヤウサイ ふしょう(負傷) フシヤウ

いっしょう(一生) イツシヤウ しょうか(唱歌) シヤウカ

しょうらい(将来) シヤウライ ぶんしょう(文章) ブンシヤウ

二、せうをしょうと書くもの。

まいりまししょう(参りませう)

よいでしょう(よいでせう)』

しょうせつ(小説) セウセツ しょうねん(少年) セウネン

しょうそく(消息) セウソク しょうしゅう(召集) セウシウ

しょうだい(招待) セウダイ しょうめい(照明) セウメイ

びしょう(微笑) ビセウ しょうしつ(焼失) セウシツ

あんしょう(暗礁) アンセウ

三、せふをしょうと書くもの

こうしょう(交渉) カウセフ さいしょう(妻妾) サイセフ

しょうけい(捷徑) セフケイ

四、じやうをじょうと書くもの

じょうず(上手) ジヤウズ かんじょう(感情) カンジヤウ

じょうたい(状態) ジヤウタイ じょうほ(讓歩) ジヤウホ

じょうじゆ(成就) ジヤウジユ じんじょう(尋常) ジンシヤウ

五、ぢやうをじようと書くもの

しじよう(市場) れいじよう(令嬢) じようぶ(丈夫)

じようせき(定石) じよう(錠)

六、ぜうをじようと書くもの

じようぜつ(饒舌) そうじよう(騷擾)

七、でうをじようと書くもの

さんじよう(三条)

八、でふをじようと書くもの

ろくじよう(六畳) いちじよう(一帖)

第二十九 チョの長音は、ちようと書く。

例

一、ちやうをちようと書くもの

ちようかい(町会) ちようたん(長短)

ちよう(腸) ちようしゆ(聴取) ちようちん(提燈)

いっちよう(一挺)

二、てうをちようと書くもの

ちようでん(弔電) ちようるい(鳥類)

ちようしよく(朝食) ぜんちよう(前兆)

ちようし(調子) ちようこく(彫刻)

三、てふをちようと書くもの

ちよう(蝶) つうちよう(通牒)

第三十 ニョの長音は、にようと書く。

例

一、ねうをにようと書くもの

によう(尿)

第三十一 ヒョおよびビョの長音は、ひよう、びようと書く。

例

一、ひやうをひようと書くもの

ひようばん(評判) ひようそく(平仄)

たいひよう(大兵)

二、へうをひようと書くもの

ひようり(表裏) にひよう(二俵) とうひよう(投票)

ひよう(豹)

三、びやうをびようと書くもの

びようぶ(屏風) びようき(病气) びよう(鉦)

四、べうをびようと書くもの

びようしゃ(描写) れいびよう(靈廟)

第三十二 ミョの長音は、みようと書く。

例

一、みやうをみようと書くもの

みよう(明日) じゆみよう(寿命)

みようだい(名代) みようが(冥加)

二、めうをみょうと書くもの

みょうぎ(妙技) みょうじ(苗字)

第三十三 リョの長音は、りょうと書く。

例

一、りやうをりょうと書くもの

ぜんりょう(善良) りょうほう(兩方)

りょうど(領土) せいりょう(清涼)

りょうさつ(諒察) ぶんりょう(分量)

二、れうをりょうと書くもの

りょうり(料理) しゅうりょう(終了)

かんりょう(官僚) りょう(寮) せきりょう(寂寥)

ぶりょう(無聊)

三、れふをりょうと書くもの

りょう(獺)

注意 一

「クワ・カ」「グワ・ガ」および「ヂ・ジ」「ヅ・ズ」をいい分けて
いる地方に限り、これを書き分けてもさしつかえない。

注意 二

語例の下に示した漢字中、当用漢字表外のものには×印をつ
けた。また漢字の右側につけた片かなは旧かなづかいを示
す。

「備考」

第一 ア列長音は、ア列のかなにあをつけて書く。

第二 イ列長音は、イ列のかなにいをつけて書く。

第三 ウ列長音は、ウ列のかなにうをつけて書く。

第四 エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

第五 オ列長音は、オ列のかなにうをつけて書くことを本則とする。

第六 ア列拗音の長音は、ア列拗音のかなにあをつけて書

く。

第七 ウ列拗音の長音は、ウ列拗音のかなにうをつけて書

く。

第八 オ列拗音の長音は、オ列拗音のかなにうをつけて書

くことを本則とする。

第九 拗音をあらわすには、や、ゆ、よを用い、なるべく右

下に小さく書く。

第十 促音をあらわすには、つを用い、なるべく右下に小さ

く書く。